

# グループホーム いなほ園

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		職員同士で、事業所の基本方針をグループワーク等を数回重ね明文化する事により、法人理念及び事業所理念の認識を意識できる様取り組んで行く。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会に加入し、地域行事への参加や事業所行事へ地域の方を巻き込む努力をしている。又、地域ボランティアの登録があり、不定期に施設に来所している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	制度の中で位置付けられている事の周知と評価の項目を検討する事でスタッフの意識も高まる様にスタッフ全員で記入に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議に出席して、その月に行った行事やドライブでの利用者様の状況などを御家族の方に報告している。スタッフも御家族の方も意見を言い合い利用者様にとってより良い環境作りに努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			自治体主催及び他の研修の講師や実習受入れ等により、行政とともにサービスの向上に取り組んで行く。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関するパンフレットや書籍を揃え、職員及び家族への周知を図っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一度のミーティングにて虐待防止についての資料を読み合い、確認し合っている。又、日常の介護において虐待がないか話し合いを行っている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>認知症対応型生活介護の入居前にきちんと分かり易く説明し、契約を結ぶようにしている。又、重要事項も、変更時にも同様に行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に利用者も参加する機会を与え、意見を聴き反映できるように取り組んでいる。又、日々の関わりにおいて、意見等を汲み取る様に接し、職員ミーティングなど他介護職員と情報を共有し反映できるようにしている。</p>		サービス相談員、派遣事業を受けようと考えている。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月末に日常生活報告書として、御家族宛てに手紙にて日常生活の変化、様子を報告している。又、御家族の面会があった際には、会話する時間をもち日々の様子を伝えている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設に御意見箱を設置し、意見・不満・苦情等を記入する事が出来る様にしている。又、相談窓口を設け、いつでも気軽に話せる機会を作っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表面談を設け、理事長と一対一でゆっくりと話す時間を作っている。その中で、理事長に直接意見や提案を延べ、伝えている。又、月に一度のミーティングの際も、意見・要望がある際は、話し合う時間を作り、日々の業務に反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>月一度のミーティングで、利用者の状況の変化について話し合ったり、ケアの見直しを行ったりしている。また、利用者や家族から要望などがあった時には、その都度対応し職員全員が周知できるよう申し送りを行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフの多数人員入れ替わりを避け、最小限に抑えている。やむおえない場合には、時期をずらし異動を行っている。</p>		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。又、職員の昇給昇進の機会を増やしたり、外部研修への参加及び、資格取得の支援をしている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>社内研修において「認知症の人の望ましい接し方及び暮らし」についてグループワークを行い、人権尊重についても考える場を持っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に研修の時間を設けたり、講演会等に参加し職員の知識や意欲の向上を図っている。管理者研修等にも積極的に参加している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>			<p>福岡県高齢者グループホーム協議会等に入会し、他事業所との交流を試みたい。又、当法人の運営するグループホームやまびことの人事交換等を行い、初心に学ぶ事等を再確認できるように取り組みたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年に一度慰安旅行を行ったり、懇親会を開く等して職員同士が互いの悩みや思いを打ち明けられる機会を設け、介護のストレス軽減に努めている。</p>		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場での声を、大事にし職員が主体性を持って働けるような環境を整備している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者が話しやすい状況でニーズを聞ける様な雰囲気作りに努めゆっくりと話を聞き、傾聴している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時や電話相談にてスタッフが御家族の要望や悩みを傾聴し、受容、助言を行っている。又、いつでも来園しやすい雰囲気作りに努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には本人と御家族のお話をじっくり聞き、その時必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含め助言を行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めは見学のみ、食事だけ、午前中だけ、といったように短時間のサービス提供を行い、利用者の負担にならないようにしている。また、利用者の意思を尊重し納得した上で契約を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に何かを行う事で、喜びや悲しみ、楽しみを共有し、同じ目線から本人と関わりが持てるようにしている。又、ゆっくり話す時間を作る事でより利用者本人を知り、信頼関係を築いている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携は常に密に行い、本人にとって今何が必要か一緒に検討し互いの情報を共有し支えていく関係を築いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と御家族のそれぞれの意見・要望・悩みをしっかり受け止める努力をスタッフ一人一人が行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室の個人空間は自宅から持って来た家具等馴染みのある物を使用して頂き、安心して生活を送ってもらえる様努めている。又、行事等を通し、御家族や知人を招待し関係が途切れない様支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合わない方同士にはなるべく距離が取れ、かつ孤独にならない様スタッフが話し相手になるなどしている。利用者同士会話が成り立たない時は、スタッフが間に入りスムーズに会話ができるようにしている。又、気の合う方同士楽しく会話ができる様、席を隣同士にしたりと雰囲気作りにも心がけている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	催し物、行事などのお知らせを行い、いつでも気軽に来訪して頂けるような雰囲気作りに努めている。		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とじっくり話せる機会を作り、信頼関係を築く中で、希望・意向を聞き出し実行できる様にしている。困難な場合には、御家族に本人の生活歴等を尋ね、何を求めているのか話し合う機会をスタッフ同士で作っている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味・特技・生活歴等御家族や本人から聞き出し、シートに残している。又、利用者との会話の中で聞き出した事も、その都度必要であれば記録に残す様にしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフが一緒に一日を過ごす中で、その方の過ごし方を知り、又残存能力を把握する事で、よりよい支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まず、一番近くにいるスタッフがアセスメントを行い、課題を見出している。又、本人やご家族のニーズをしっかりと把握した上で他関連施設等と連携し介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回ミーティングを実施し、各利用者の介護計画の見直しを行っている。対応できない状況になった時は、その都度臨時会議を行い、場合によっては御家族の参加も呼びかけている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活に変化があった場合は、個人票にて記録し全職員が把握出来る様にし、又病院受診等の際に、すぐに報告出来る様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族からの話を聞き、状況に応じ出来るだけの支援を行えるように努力している。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に地域ボランティアの方が事業所に訪問して下さり、会話等をして頂いている。又、消防訓練にも地域住民が参加して頂いた。行政関係としては、救命救急隊による、救命救急講習や、警察官による交通安全教室(地域者も参加)を開催している。		消防署立会のもと消防訓練の実施に取り組んで行く。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			本人のニーズを把握し、必要に応じて他のサービスの利用を支援できるよう取り組んで行く。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に一度の運営推進会議への参加や、法人の他事業所(通所介護)等で相談を受けたりと連携を取っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	三浦整形内科・外科クリニックのお2人の先生、黒田皮膚科の先生、有松歯科医院と往診出来る対策を整えていると共に、必要であれば他科にいつでも受診できる様にしている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の外来日等を把握し、何か困った時があれば受診出来るような体制となっている。又、ご家族等へも情報を教えている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、利用者の体調などで変化があった場合、いつでも気軽に相談することができる。		



## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している			まだ入院された方はおられないが、その際は家族、病院側との情報交換に努め本人が不安なく安心して過ごせるようにしていきたい。又、早期の退院に向けての話し合い、相談を行っていく。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、必要と感じた際、出来るだけ早めにご家族と話し合い事業所内での対応も十分に説明したうえで承諾をいただいている。又、その際の医師との連携についても厳密に検討し、御家族と全職員が把握できるようにターミナルケアプランを作成しそれにもとづき迅速な対処を行う体制となっている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	スタッフ全員で利用者を支え、医師やご家族とも今後の方向性を話し合い、支援できるように努めている。又、体調の異変があった時は、すぐに各機関、御家族に連絡し、迅速な対処を行う。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			今現在、退所した利用者はおられないが、今後退所される方が出た時は、御家族とも十分な話し合いを行い、移り住む側の関係者や各事業所関係者に情報の提供を行っていききたい。又、一番環境が変化する本人の不安を取り除ける様に努めていきたい。
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや態度には十分に配慮し、常に人生の先輩・目上の方という気持ちを忘れず接している。記録等も、他者の目につかない事務所内のロッカーに保管し、保護行っている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	例えば入浴日には一緒に衣類などを選び、好きな洋服を着て頂いている。自己表現が困難な方は、こちらから働きかけ、意思を伝えやすい雰囲気、言葉かけを行っている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースに合わせ、自由に過ごして頂ける様支援している。又、何かしたいと希望があった場合は、出来るだけ取り入れ、満足した日々を送れる様努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	「髪を染めたい」「パーマをかけたい」等要望があった場合は、御家族に連絡し、御家族と共に馴染みや行きつけの美容室に行っている。又、御家族の来所が無理な場合は、事業所に来て頂いている散髪の方に頼んで行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳・盛り付けは声掛けし、利用者様になるべく行って頂いている。後片付けも負担にならない程度で、各利用者様に行って頂く様にしている。自ら台所に立ち、自分の食器だけでも、洗って下さる方もいらっしゃる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	会話の中等で利用者様の好みの物を聞き取り、誕生会のメニューに取り入れれたり、昼食メニューとして提供している。又、お刺身の日やお正月等にはお酒をお出し、季節行事や食事を楽しめるようにしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自力にて排泄困難な方には、排泄パターンを考慮した上で定期的にトイレ誘導の声掛けを行い、失禁等で気分を害さない様にしている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬の間は週に2度お風呂を沸かしていたが、6月から汗ばむ季節になり週に3回入浴の時間を設けている。入浴を楽しんで頂ける様に、入浴剤を使用したり、浴室を季節が感じられる様に工夫している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の生活習慣を大事にしている。昼寝したい人は自由に居室にて休息が取れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人差はあるが、家事などが出来る方には声掛けし、スタッフと一緒にしている。気晴らしが出来る様に、時折ドライブや散歩も行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の大切さは理解しているが、お金を持つことにより問題が発生する事を考慮し、事業所では個人がお金を所持することはない。しかし、理由があり買い物に行く時等、持っていた方が良いと思われる時は、その時に応じて考えている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近所を散歩したり、チューリップ・藤・菖蒲等の季節毎の花を季節に合わせて楽しめる様に、満開の時期に合わせてドライブに出掛けている。又、「外の空気を吸いたい」と本人より希望があった時は、少しの距離でも散歩を行い満足して頂ける様にしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	その都度、春夏秋冬季節を感じられる様に、ドライブに出掛けたり買い物に出掛けたりしている。又、花見等の行事には御家族に必ず声掛けし、参加して頂いている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「自宅に電話したい」と訴えがあった時は、すぐにその場で電話して頂ける様対応している。訴えが何度も続き、御家族の負担になりそうな場合は、納得できる声掛けを行い、いつでも連絡が取れるので大丈夫だと安心して頂けるよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問があった際はお茶等をお出しし、ゆっくりと過ごして頂ける様に心がけている。又、お帰りになる際、次回の来訪の声掛けを必ず行ったり、手紙等で声掛けを行ったりと、気軽に訪問しやすい雰囲気作りを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの際、身体拘束について話し合う機会を設けている。全職員が具体的な行為・内容をしっかりと理解し、日々のケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	9時～18時までは必ず開錠している。やむえず施錠する場合は、理由を御家族へ報告し、了承を得てから行っている。又、施錠した場合は全職員が把握しておき、開錠できる状況になれば、必ずすぐに開錠する様にスタッフ同士の声掛けも行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士の連携により、利用者様の所在は常に分かる様にしている。個別に外出する場合等は、必ず、残るスタッフに誰と外出するか等細かく伝える様にして、全職員が把握し、安全に努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ホーム内に危険になる様な物はなるべく置かないようにしている。部屋を徘徊する方がいるので、危険防止の為危険になる様な物は手の届く場所には置かない様にしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬がない様に服薬を見届け、ミーティングの際に防災の知識を話し合っている。出入りが分かる様に入口にはチャイムを設置し、単独外出防止を行っている。スタッフ同士の連携で事故防止に取り組んでいる。		

グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生法の研修を行い、全職員が処置法を把握している。又、日常的に管理者や医師に尋ねる等して、いざという時の対応に備えている。又、救急救命士による職員への、救命救急講習を開き、勉強できる機会を与えている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2度消防訓練実施。必ず地域の方に声掛けし、参加して頂いている。避難経路・避難場所は全職員が把握し、落ち着いた対応が出来る様にしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクについて御家族等に十分に説明し、身体拘束廃止による取り組みにおいての転倒のリスク。又、ターミナル期をどこで過ごすかについては事前に確認を取っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタル測定時、異常・変化があった時には、再測定として夜勤者が日勤者に申し送っている。昼食後測定し、異常があった場合はすぐに理事長及び施設長に報告し、指示を仰いでいる。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人一人が使用している薬の目的・副作用・用法・用量について理解しており、処方箋は個人ファイルにとじ、保管している。症状の変化などがある時には、理事長・施設長及び医療機関に報告し指示を仰ぐなどの対策を取っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分摂取の声掛けを行ったり、食物繊維の多い食材を多く食事に取り入れる等工夫している。又、毎朝ラジオ体操と室内散歩を行い、運動の時間を作っている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ず声掛けし、口腔ケアを行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスの良い献立を考えて提供しており、食事は毎食チェックし、記録している。又、1日3食とは別に、10時・3時にも水分摂取して頂ける様提供している。また、一人一人の状態に合わせ、ミキサー食にしたり、細めに飲水して頂ける様に工夫している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	細めに手洗いをして頂く様声掛けを行い、状況に応じてうがい等もして頂く。スタッフも一つの動作ごとに必ず手洗いを行い、感染予防に努めている。シーツ交換は週に一度、毎週日曜日に行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎夜調理用具は漂白剤に浸けて清潔に努めている。又、食材は常に新鮮な物を使用し、食中毒防止に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中(9時~18時)は開錠し、利用者様や御家族、近隣の方が安心して出入り出来る様にしている。又、玄関の前に花壇を作る等温かい雰囲気になる様工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には不快な音や光が無いように配慮しており、居間や玄関、食堂等には季節の花を生け、居心地良く過ごせる様工夫している。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも、数カ所に別れ好きな所で過ごして頂ける様に、空間作りに取り組んでいる。仲の良い方・独りになりたい方・和気あいあいとレクリエーションに取り組める様に工夫し、居心地の良い場所と感じて頂ける様にしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が以前使い親しまれていたタンス等を居室に置き、自分らしい生活が出来る様に努めている。又、壁には利用者様の写真・御家族の写真等を貼り、心が安らぐ様にしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節に応じ、冷暖房や窓の開閉をする事で空調の調節に気を付けている。又、入居者様に寒い・暑い等尋ねる様にし、入居者様に合わせている。臭いは特に気を遣い、トイレ・居室・居間は状況に応じて換気行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	作りは設計の際、ユニバーサルデザインを行い建設しているが、利用者の状況がそれぞれ異なる為、個人の空間(居室)は一人一人の状況に合わせ、又、風呂・トイレ等共用空間は小さな事も危険の無い様、常に配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援という事で自分で出来る事は自分でして頂き、出来ない所は一緒に行ってみたりと、個人に合わせ支援している。又、スタッフは、一人一人の出来る事・出来ない事を理解してケアを行う様にしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭では小さな菜園場を作って利用者様と一緒に土いじりをし、会話の話題にしたり、野菜を作り、スタッフと一緒に育てている。育つ事の喜びや収穫して頂くまでの一連の作業を一緒に行う事で、喜びを味わって頂いている。又、ウッドデッキでは、おやつや昼食を召し上がり、違う雰囲気での食事を楽しんで頂いている。		

グループホーム いなほ園

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



## グループホーム いなほ園

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者のストレス解消を図るために、外出の機会を増やしたり事業所内においても、季節感を感じられるよう装飾(生花など)を行っている。  
 介護職員においても主体性を持って働けるように「明るい職場」「働きやすい職場」となる様に、介護におけるストレス解消の場を与え、介護職員が向上心を持ち個人個人のスキルアップに向けて取り組んで行けるよう法人全体で取り組みを行っている。  
 当法人の運営する「グループホームやまびこ」「宅老所やまびこ」との交流を図り、互いの行事に参加し入居者の楽しめる場を増やせるよう取り組んでいる。  
 定期的に地域ボランティアの方が訪問して下さる。入居者と地域住民との接点が増える事により、地域に開かれた事業所として住み心地のよい環境となっている。